



あなたは  
255,501人目  
の読者です！

Q：ジャカルタアジア大会。陸上競技3000m障害、本市出身の塩尻和也選手の成績は？

- ①残念、棄権
- ②入賞！
- ③メダル！！

塩尻選手の8分29秒台の記録は日本歴代8位であり、箱根駅伝人気で駅伝に偏向している日本長距離界では17年ぶりの8分20秒台の記録なのです。



### ◆今号の特集 平成29年度(前年度)予算の決算審議報告

9月議会は前年度予算の決算を行う議会です。既に執行(予算を使う)が終えた予算の審議ですが、決算審議は現在の事業や来年度予算の見直しの一つのきっかけになる重要な機会です。各議員が選挙で約束をした事項を審議しているかどうか、私一人の報告でお伝えするのは不可能なので、皆さん自身での確認をお願いいたします。

私は本会議場において、しごと・ひと・まちづくりの評価、骨髄移植ドナー支援事業、5歳児健康診査、空家等対策事業、財政運営、指定管理者制度、事務事業評価、スポーツの推進、コミュニティスクールについて質疑しました。

決算委員会において、PFI、市紹介動画、市ホームページ、入湯税、放課後等デイサービス、自殺対策、産後ケア、公立幼稚園、ふるさと寄付金、給食費の未納、介護予防、老人保健施設の経営、訪問看護ステーションのサービスについて質疑しました。今号ではその一部を紹介させていただきます。

### ◆市議会議員の役割について

9月議会において、議場にいた私も耳を疑うような発言をした議員がいました(お問い合わせ頂ければお答えします)。議員は、特定の団体・地区・同級生・宗教・親戚等にご支援頂いて当選する事が多いのは皆さんもご承知の事実です。しかしながら、某議員の発言に対して、私に対して複数の方から「特定の分野・地区・人への利益誘導を強力に提言するのは議員の仕事なのか？」と厳しいご意見を頂きました。より一層、広く伊勢崎市と市民の皆さんの為の仕事が出来るように精進したいと思います。

ご意見お寄せください！

住所：伊勢崎市太田町1146-7      メール：swrmg866@ybb.ne.jp  
電話：090-7836-3135(取れない時は折り返し電話します)

馬庭 充裕 (まにわ みつひろ)

—伊勢崎市議会議員— いせさき未来代表 1978年11月22日生まれ。39歳  
尚学館中学(宮崎県)、日高高校(和歌山県)を経て、群馬大学卒業(理学療法士・呼吸療法認定士)。美原記念病院に勤務後、現職。市内太田町在住、家族は妻・娘(高校生)・息子(小学生)

### 活動写真館 (見聞きする全てが学び。規模問わず気軽にお呼び下さい)



上：官民協働。市役所の地域医療推進課と民間の社協・訪問看護・地域包括がワンフロアに入っています。

文教福祉委員会にて静岡県掛川市地域健康医療支援センター「ふくしあ」を視察しました。驚く事に一つの敷地内に県立特別支援学校・放課後等デイサービスセンター・急患診療所・地域健康医療支援センター・リハビリテーション機能を持つ療養型の病院・介護老人保健施設・重度心身障害者通所施設・特別養護老人ホーム・保育園が集積していました。多職種の関わりにより「様々な問題が複合した方への対応能力向上」「地域に根差した予防活動の推進」「訪問看護による在宅医療の拡充」がはかられていました。医療・介護連携のみでなく、障害福祉・児童福祉・地域福祉との連携が今後のカギと言われる中、参考となりました。

右：群馬県市議会議長会研修会「議会力向上のヒント～政務活動費の活用策～」に参加しました。高沖先生は議会は政策条例を作っているか、公聴制度を活用しているか、専門的知見を活用しているか、個人の質問だけでなく議会として意見をまとめているか、と来場者に投げかけました。私も含め、参加した議員の多くが身につめられたのではないかと思います。議会基本条例の制定、議会報告会の開催、議員個人の賛否の公開など議会が出来る事はまだまだ沢山あり、もう議会の役職を順番待ちして前例通りこなすだけの議会では市民の多様な要望に応えられないと感じます。



左：三郷地区球技大会にお招きいただきました。又、卓球競技に参加しました。卓球は素人で1勝も出来ませんでした、楽しい1日でした。



左：文教福祉委員会にて赤堀歴史民俗資料館を視察しました。県内最大級の埴輪馬の他、重要文化財多数、企画展もあります。



上：四つ葉学園中等教育学校10周年記念式典。写真はオープニングの吹奏楽部生徒さんによる演奏です。10年という今後、卒業生が社会で活躍する頃となりますね。



左：三郷小伝統のソーラン節。  
上：第三中学校体育祭ムカデ競走その他、北小学校・県立特別支援学校の運動会を観覧しました。



伊勢崎市の財政は健全！しかし、課題もあり

伊勢崎市の財政をチェック！

国が定めた指標（上の4つ）など伊勢崎市の決算状況を見ます

	29年度データ	昨年度比較	国の警告基準	まにわの評価
実質赤字比率(会計は赤字?)	黒字	同様	11.25%以上	良好
連結実質赤字比率(全体で赤字か?)	黒字	同様	16.25%以上	良好
実質公債費比率(借金返済割合)	5.2%	0.5ポイント改善	25%以上	良好
将来負担比率(将来負担は?)	39.5%	2.7ポイント悪化	350%以上	良好
29年度末市債残高(借金額)	約683億	約6億円減	基準無し	良好
29年度末基金残高(貯金額)	約120億	約10億円減	基準無し	下記

健全財政運営が  
続いていきます。

しかし、昨年度と同様の指摘をします。本市は事務管理課による事務事業評価を行ってまいりますが、「事業の継続」がほとんど、事業の整理が行えていません。国からの地方交付税(送付金の減少)は更に続いていますが、基金取り崩しや景気の緩やかな回復による税収の向上に救われた形で同様の健全財政を継続出来たにすぎません。

利害関係者がいる事から事業の整理が困難な事は理解出来る部分もあるのですが、税収の伸びも限界があるため、引き続き事業の整理、そしてそれと共に公共施設の統廃合を主張してまいります。

祝！塩尻選手銅メダル  
スポーツ推進計画策定を控えた本市のスポーツ施策は？

本会議会派代表質疑②

◆スポーツの推進について  
質疑…高齢者・障害者スポーツの推進はどのような配慮で行われたかお聞かせ下さい。シャカルトアジア大会陸上競技3000m障害において、本市出身の塩尻和也選手が見事銅メダルという快挙を成し遂げました。他にサッカー元日本代表選手や過去には、プロ野球選手・ボクシング世界チャンピオン選手などいらっしゃいます。スポーツ推進計画策定を控える年度の中、又、東京オリンピックも迫る中、どのような情報収集・発信、選手の支援をされていたでしょうか。

答弁…高齢者及び障害者スポーツ推進については、交流を目的にグラウンドゴルフ・スポーツ吹矢・ラダーゲッターの3種類のトライアルスポーツ大会を参加資格や競技種目の時間配分や車いすで参加する方への対応などに配慮して開催しました。本市で活躍された著名人の周知については、日本プロ野球及び巨人軍生みの親とされる故・鈴木宗太郎氏の功績を讃え、胸像を建立するなど、周知しております。又、本市出身の塩尻和也選手がシャカルトアジア大会にて銅メダルを獲得した事は大変喜ばしい事です。塩尻選手はリオオリンピックに参加した時にパブリックビューイングを開催しました。今後も本市関連のスポーツ選手が世界大会やオリンピックなどに出場する際には情報収集及び発信に努めて、市民の皆様が一体となって応援出来ますようサポートしていききたいと考えております。



選ばれる自治体は、客観的数値のみでなく、主観的評価向上が必要です

本会議会派代表質疑①

◆しごと・ひと・まちづくりの評価について  
質疑…「しごと作り」「ひと作り」。「まち作り」の観点から成果を伺います。  
答弁…しごとについては新規求人数が目標値1466件に対して実績値は1618件でした。ひとについては出生数が目標値1980人に対して実績値は1789人でした。まちについては刑法犯認知件数が目標値2400件に対して実績値は1760件でした。  
再質疑…まち・ひと・しごと創生会議の中で出生数において「今後も本市で子育てをしたいと思う」の回答が伸び悩んでいる事を聞いております。この主観的な評価を高める事が必要です。どのように分析をしていますか。  
再答弁…分析・評価の件は、詳細なものは行っておりません。市民意識調査の中では30代の方は高い評価を頂いているので、向上していくよう検討させて頂きたいと思っております。

◆指定管理者制度について  
質疑…(\*指定管理者制度とは、民間に市の施設の管理を代行させる制度です)29年度は、公平性・透明性という観点から指定管理者選定や実績評価はどのように行われましたか。施設の堅実で安全な運営の為に、一部のみならず自主的に評価結果を全て公表すべきですが、見解をお伺いします。  
答弁…議事録と点数は公表し、詳細は情報公開制度により公開しております。第三者評価は行っておりませんが、指針及びマニュアルに基づき評価を行っております。今後、審議結果の公表の項目等の検討をしたいと思っております。又、実績評価についても他市町村の状況を調査研究し、公表に向けた検討を行っていきたくと考えております。

決算委員会質疑

◆市紹介動画制作委託について  
質疑…公開中の動画は魅力的ですが、視聴数が伸び悩んでいます。原因をどのように分析していますか。又、視聴者は食やアニメなどに興味があるようです。又、市の紹介動画コンテンツの考えをお伺いします。  
答弁…1〜2分で頂く公式動画の位置付けで、苦戦の理由は視聴者が地元の方が多いためと分析しています。試行的に慶応大学藤田教授とタイアップした動画制作も開始しました。コンテンツは検討していきます。

◆介護予防事業対象者把握事業について  
質疑…早期発見・早期対策、適切な運動やリハビリテーションにより要介護認定率を下げる事が出来ると考えています。対象者把握事業の成果についてお伺いします。  
答弁…平成27年度まで二次予防事業として行っていて、29年度新規事業として把握事業を再開しました。65歳以上の市民の方に20項目のチェックリストを送付し、返信を受けて把握します。41164人を対象に送付し、66%の有効回答を得て、回答者の25%の方に運動機能・口腔機能の低下がみられていました。又、未回答者のうち、80〜89歳の独居高齢者417名を保健師等で訪問し、47名を各センターにつなげました。

